

市町村：最上町

タイトル：アスパラガスの新産地形成による地域農業の振興  
～ ゼロからの出発 ～

氏名(法人名)：最上町アスパラガス生産協議会

会長：斉藤菊雄、会員数：96名、設立：平成16年9月9日

### 1 組織の概要

最上町は夏期冷涼な中山間地域で、作物は度々やませの影響で作柄が不良となる地域である。農業経営の安定化のため、高い稲作依存度からの脱却と園芸品目への転換を検討した結果、気象条件に適合したアスパラガスを導入し、平成16年9月に最上町アスパラガス生産協議会が組織された。また、町内の畜産農家から供給される堆肥の有効活用を通じ土づくりに重点をおいた長期立茎栽培を導入しながら生産農家・栽培面積が拡大した。

生産調整による転作田の有効活用と集出荷施設による規格の均一化と新たな雇用の創出などにより、取組みが急速に拡大し、平成16年から4年目で生産農家数85戸、栽培面積28ha、販売金額約1億5千万円に成長した。

### 2 活動内容

#### (1) 生産面積・販売額等の推移

区分 年度	農家戸数 (戸)	栽培面積 (ha)	出荷数量 (t)	単価 (円/kg)	販売金額 (千円)
平成16年	43	7.94	—	—	—
平成17年	68	16.42	60.8	573	34,892
平成18年	78	22.46	87.4	893	78,134
平成19年	85	27.77	178.1	850	151,471
平成20年	96	33.39			

※平成20年は8月1日現在

#### (2) 耕畜連携による環境保全型農業の実践

最上町では畜産業が盛んに行われているが、家畜堆肥の引取り先に苦慮していた。また、アスパラガス栽培では、土づくりに重点を置き大量の堆肥を利用するものの、個別対応では多くの労力を必要とした。そこで、畜産農家への働きかけにより堆肥散布組合(コントラクター)が設立され、堆肥散布の委託により、生産組織(耕種農家)の負担を軽減することができた。アスパラガスの生産拡大は堆肥の受け皿確保につながり、堆肥を活用した施肥体系を実践することで、耕畜連携に繋がっている。また、生産組織全員をエコファーマーへと誘導することができた。

#### (3) 地産地消費の推進

生産販売額1億円突破を記念して、最上町すべての小学校の学校給食に、食材としてアスパラガスを提供している。

#### (4) 新たな雇用の創出

1戸あたりの栽培面積も拡大し、最大で1.5ha農家が現れ、家族労働では限界に達しており、外部より新たな人材を雇用している。このような農家が20戸ほどあり、選果場での雇用などを含めるとアスパラガスが導入された事で、多くの雇用が創出されている。

#### (5) 省力技術の改良・導入

きゅうりの茎葉誘引用アーチパイプを耐雪性に優れた形状に改良し、大規模農家の省力技術として定着した。また、マルチとエンジンポンプを利用した効率的かん水法を導入し生産性が向上した。

### 3 今後の発展方向

現在、最上町のアスパラガス産地形成は、アスパラガスを核とした耕畜連携の取組みや新たな加工品の取組みなど町内の食品産業、観光業等の連携強化の契機になっている。平成17年から稼働した共同選果施設による雇用の外に、収穫や管理作業等の雇用確保の受け皿など、アスパラガスを核とした総合産業として期待が高まる等、アスパラガスによる地域振興が各方面で進められている。これらの動きを一層確実なものにするため、更なる産地拡大と技術向上を図る一方、10年後に想定される改植や高齢化の課題等の解決に向けた準備を計画的に進めていく。